

2. 国語科論文

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成Ⅱ

自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもの育成 ～他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムの創造～



I	研究の目的	25
1	研究の背景	25
2	研究の方向	25
II	研究内容	26
1	自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども	26
2	他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム創造の基本的な考え方	27
(1)	他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムとは	27
(2)	カリキュラム創造の視点	27
3	他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム全体構想	28
(1)	各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定	28
(2)	目的意識・相手意識の重視	29
(3)	共通体験活動の重視	29
4	他者とのかかわりを通してことばと向き合う国語科カリキュラムの具体化	30
(1)	単元配列の具体化	30
(2)	言語の豊かさにふれさせるための授業外の取組	31
III	研究の実際	32
1	実践の立場	32
2	国語科 第3学年 年間指導計画	32
3	実践結果と考察 第3学年単元「まとまりに分けて書こう」	33
IV	研究の成果と課題	36
1	研究の成果	36
2	研究の課題	36

【学校教育目標】

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成 【校訓】 まことの子・ちからの子・のぞみの子

【目指す子ども像】

(知) 互いの考えに学び合う子ども

(徳) 心と心がひびき合う子ども

(体) 心と体をきたえ合う子ども

【本校の主な教育課題】

確かな学力の面から

○論理的な思考 ○伝え合う方法の習得
○学ぶ喜びや楽しさの実感

豊かな心の面から

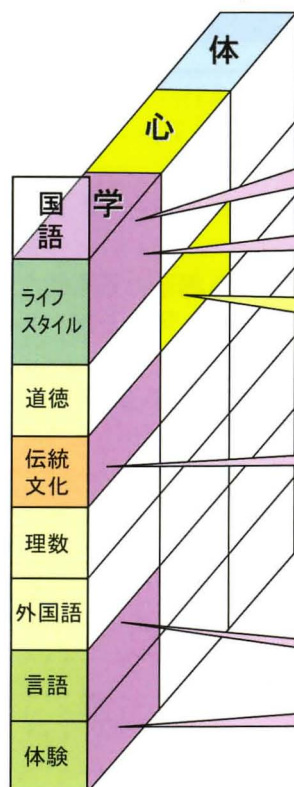
○人間関係(他者意識) ○自己の発揮の仕方
○多様な体験

健やかな体の面から

○基礎体力 ○生活習慣 ○健康・安全

【確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和的にはぐくむカリキュラム】

		確かな学力をはぐくむ観点(知)												
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳	外国活動	総合	特活
カリキュラム創造の視点	枠組	学校のライフスタイルの見直し												
	内容	道徳教育の充実												
		伝統や文化に関する教育の充実												
		理数教育の充実												
		外国語教育の充実												
	方法	言語活動の充実												
		体験活動の充実												



各領域の関連を図り、二学期制の特長を踏まえた単元配列

言語への関心を高め、ことばを広げたり、深めたりするための朝の活動「ことばの時間」の設定

他者とのかかわりを通して、お互いの見方や考え方のよさに気づき、伝え合うよさを実感する子どもの育成

我が国の言語文化に親しむ態度の育成

「相手意識・目的意識」「共通体験活動」を重視した、他者とのかかわりを通し自分のことばと向き合うカリキュラムの作成

I 研究の目的

1 研究の背景

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」において、国語科教育では、様々な対象にかかわる中で、あふれる言語情報の中から自分にとって必要な情報を自ら収集、選択し、そこに見出した課題や問題を主体的に追究し、言語を通して相手や目的・場に応じ適切に表現・伝達・理解する言語能力を育成していくことが求められている。

私たちはこれまで、伝えたいことをよりよい言葉で相手に伝えるために、効果的な書く活動を設定し、自分のことばで伝え合うことによって「関心・意欲、態度」を高め、「知識、技能」、「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせるための研究をしてきた。そして、学習指導要領の改訂に伴い、言語活動の特徴・様式と分類を本校なりに設定することができた。しかし一方で、自分の考えを明確にして表現すること、特に、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら理由や根拠を明確にして述べることや事実と感想や意見を区別して述べること等に課題があることが明らかになった。これは、自ら思考し判断した事柄を的確に言い表し、相手に正確に伝える力や相手の真意を聞き出すことのできる力を十分に育成し切れていないためではないかと考える。そのため、これらの力は、子どもの日常生活の中にも生かされていなかった。

2 研究の方向

子どもたちの中には、自分の思いをうまく伝えられたという成就感を味わった経験が少ないために、自分の思いを伝えようとする前にあきらめてしまったり、自分の思いをもとんとすらしなかったりする姿も見られる。

私たちは、時代の要請、学習指導要領の改訂、子どもの実態から、自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもを育てたいと考えた。その理由としては、子どもたちに、学習したことを日常生活の中において活用できる力を培うことができれば、自分の思いを伝えることができたという実感をもたせることができるとともに、新たな思いを自らもち、自ら伝えようとする意欲を高めることになるからである。そして、そのことがあこがれを抱き、なりたいたい自分に近付こうと自ら努力する「夢や目標をもつ姿」につながると考える。また、自分の思いをきちんと整理し少しでも分かりやすく伝えようとしたり、相手の立場になって、その思いの背景にあるものを理解しようとしたりするといった目的意識や相手意識も深まるような国語科の学習を繰り返して行くことは、「共にみがき高め合う子どもを育成する」ことにもつながる。

そのために、他者とのかかわりを通して、自分の伝えたいことが相手によりよく伝わるように、常に自分のことばと向き合う国語科カリキュラムを創造していきたいと考えた。その理由としては、他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合うことで、獲得した「知識、技能」等を国語科の学習だけでなく、他教科等あるいは、日常生活に活用することができるからである。つまり、子どもの「関心・意欲、態度」、「知識、技能」、「思考力・判断力・表現力」を総合的に高めたり、身に付けさせたりできるような国語科カリキュラムを創造していくことが必要なのである。

以上のことを踏まえて、本年度は、次のような研究主題を設定した。

自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもの育成
～他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムの創造～

Ⅱ 研究内容

1 自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども

「子どもとは、読み取ったこと、感じ取ったこと、考えたこと、思ったことといった自分の『思い』をより確かに伝えたいという願いや欲求を本来持っている存在である」と考える。そして、その思いが相手に伝わったと感じられたとき、子どもたちは「やった」「できた」という成就感や達成感を感じるとともに、「やればできる」という自己肯定感を味わうことができ、自分の思いを表現する喜びや楽しさを実感することができる。つまり、子どもは、新しい事象に出合ったときに、様々な思いを抱く。例えば、ことばや教材に含まれる知識や情報、筆者の見方や考え方などの内容的価値に対する思い、あるいは、表現技法の工夫等の技能的価値に対する思いがある。そして、そのようなことばや教材から学んだ価値を自分の言語経験や学習経験をもとに深く理解し、自分も誰かに上手に伝えたいという願いをもち、ことばに対する見方・考え方・感じ方のよさを友達とのかかわりの中で伝え合うことに喜びや楽しさを実感する子どもが「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども」である。このような子どもは、学習したことを日常生活に生かしていこうとすると考える。

以上のことを整理すると次のようになる。

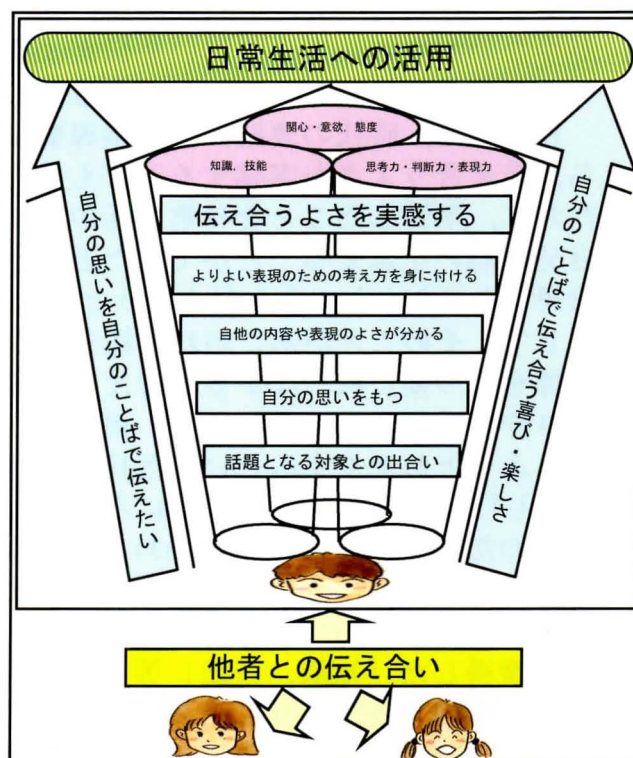
新しい対象との出会いから自分の思いをもち、納得するまで積極的にことばと向き合ったり、他者とのかかわったりすることを通して、伝え合うよさを実感し、日常生活に生かしていこうとする子ども

図1のように子どもは、話題となる対象との出会いや表現したいという思いから自分や他者の表現に対して言語感覚を働かせる。そして、どのように表現すべきか、あるいは、表現をどのように受け取るかという課題を見付ける。

また、内容や表現のよさが分かり、それを伝え合うことで自他の表現の適否、正誤等について判断する。その際、内容や表現の仕方についてお互いにアドバイスし合ったり、よさを認め合ったりすることで自分のことばで伝え合うことができるという喜びや楽しさを実感することができる。

さらに、学んだことが日常生活において発揮されることで、自分の思いを深めたり、分かりやすい表現の仕方を追求したりすることの有用感や成就感を味わい、【図1 自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども】自分のことばと向き合おうという意欲を高めていくことができると考える。

つまり、「関心・意欲、態度」、「知識、技能」、「思考力・判断力・表現力」という三つの力を身に付けることができた子どもは、自らの思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもであると言える。そして、そのような子どもの姿は、学校教育目標「夢や目標をもち、共にみがき高め合う子ども」の姿であるにとらえている。



【図1 自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども】自分のことばと向き合おうという意欲を高めていくことができると考える。

2 他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム創造の基本的な考え方

(1) 他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムとは

子どもたちは、それぞれの見方や考え方で対象に対する自分の思いをもち、自分なりのことばで表現している。自分の見方や考え方を相手に伝える際には、ことばを選び、取り上げる事例、順序や方法等を考えることで表現に至る。また、それを他者と伝え合うことによって、新たな見方や考え方をもち、このように、子どもたちは他者とのかかわりによって、思慮深く物事をとらえて吟味し、判断する。そして自分の思いを伝えるためにぴったりのことば、すなわち「自分のことば」と向き合うのである。つまり、「他者とのかかわりを通して、自分のことばと向き合う国語科カリキュラム」とは、他者との様々なかかわりが学習経験として積み重ねられていくことで筋道立てて表現する方法や言語技術を習得させるようなカリキュラムであると共に、学習者に必然性を感じさせるように生活に根ざした課題をもたせる学習が展開されるカリキュラムである。

このようなカリキュラムを創造するために、次の三つを視点として重視する。

(2) カリキュラム創造の視点

ア 各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定

本校では昨年度の研究で、指導事項との関連を図り、自ら考え、伝え合う言語活動を設定した。その研究を通して、子どもがより主体的に対象や教材にかかわり、自分のこだわりをもつといった豊かな言語活動を行っていくためには、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域における言語活動の関連を図り、螺旋的・反復的に繰り返しながら指導をすることが必要だと考えた。そうすることで国語科で育成したい三つの力「関心・意欲、態度」、「思考力・判断力・表現力」、「知識、理解」をより確かに身に付けさせることができると考える。そこで、各領域の関連を図った系統的な言語活動を設定したカリキュラムを創造していくことが大切である。

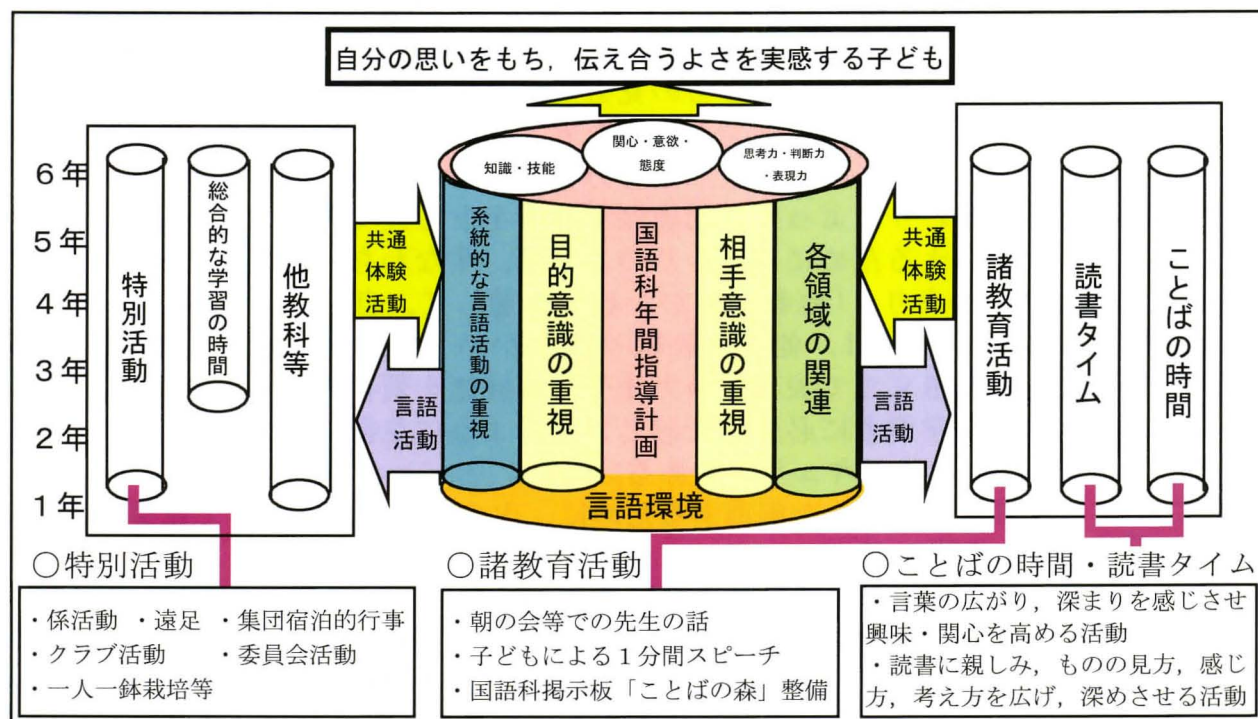
イ 目的意識・相手意識の重視

課題を共有し、意見を述べ合ったり、相互に評価し合ったりしながら協同的に学習を進める中で互いの考えを更に深めていく力を高めていくためには、子どもが自分にとって本当に必要な多くの言語情報を集め、選択・整理し、ことばに対する見方・考え方を広げたり深めたりしていくといった目的意識を明確にもった言語活動を行っていくことが大切である。また、子どもたち自身が「自分の思いをもっと分かりやすく伝えたい。」「相手の伝えたいことを理解したい。」という相手意識をもって学習を進めることで、ことばのもつ意味や働き、その美しさに気づき、豊かな感性や情緒を育むことができる。そこで、「何のために、だれに、自分の思いを伝えるのか」という目的意識・相手意識を重視したカリキュラムを創造していくことが大切である。

ウ 共通体験活動（他教科等・学校行事等との関連）の重視

言語は、感性や情緒をはぐくみ、コミュニケーションの基盤をなすものである。他教科・学校行事との関連を図り、共通した体験について、自分の思いをもたせたり、伝え合う活動を設定することにより、習得した「知識、理解」をより活用することができる。ここで習得した知識や技能を活用する場はカリキュラムの全域にあると考える。そこで、他教科等・学校行事との関連を意図的・計画的に図ったカリキュラムを創造していくことが大切である。

3 他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム全体構想



【図2 他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム】

他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムの全体構想を図2のように設定した。そしてその創造に当たっては、前述の三つの視点を具体的に考えていくことが大切であると考えた。

(1) 各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定

言語活動を設定する際に大切なことは、身に付けさせたい「知識、技能」を明確にし、言語活動の特徴から適切な様式を選び、系統を踏まえることである。例えば、中学年の目的に応じた読書に関する指導を行う際には、「広報」の言語活動の分類（平成21年度研究）を意識し、低学年での「知らせたいことの紹介」を受けて、高学年の「本の推薦」に発展するなどの言語活動を設定していくことである。その際、各領域の指導事項の系統を踏まえながら関連を図った言語活動をカリキュラム上に設定することが大切である。

【表1 言語活動の分類と系統】

分類	言 語 活 動	1・2年	3・4年	5・6年
事実	連絡	必要なことを伝える	必要なことの連絡	
	説明	成り立ちや仕組み、はたらき、価値などを根拠を基に伝える	事物の説明	出来事の説明
	記録	観察したり、調べたりして得た事実を、正確にまとめる	観察の記録	調査の記録
	報告	特定の読み手のために、客観的事実を伝える	経験の報告	調査の報告
主張	感想	自分の感じたこと、思ったことを表す	物語、科学的な読み物の感想	詩の感想
	意見	成り立ちや仕組み、はたらき、価値などを根拠を基に伝える		生き方への感想
	助言・提案	他者の考えに対して異なる自分の考えを伝える	説明・報告への意見	課題解決のための意見文の利用
広報	紹介	自分が感じている事物、人物などのよさを伝える	知らせたいことの紹介	本の紹介
	推薦	事物、人物などのよさを多くの人に伝える		事物・人物の紹介
創作	物語、詩、短歌、俳句、随筆	身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や自分にとっての意味などをまとめる	簡単な話や詩の創作	詩や物語の創作
				短歌、俳句や随筆の創作
検討	対話	向かい合って自由に話す	確認、質問、応答	
	話し合い	一つの話題について聞き手・話し手になり、解決を求める	グループでの話し合い	学級全体での話し合い
	討論	一つの話題について、対立した立場の人が自分の説の正しさを主張し、相手や第三者を説得しようと意見を述べる		調査・まとめについての討論
日常	あいさつ	相手の気持ちや場に配慮した言葉	場面に合わせたあいさつ	
	手紙	目的を持って、用件・意志・心情を、文書で伝える	簡単な手紙	依頼状・案内状・礼状

(2) 目的意識・相手意識の重視

子どもたちが自分のことばと向き合うためには、設定した言語活動が子どもの発達の段階を踏まえていることが大切になる。そして、そのような言語活動であれば、子どもは目的意識や相手意識などをもって自分のことばと向き合おうとするのではないかと考える。

そこで、低学年は見たり聞いたりした身の回りの出来事や自分が経験したことなどより身近なものを、高学年になるにつれて社会的な広がりをもつものを考えて設定したり、同学級の身近な友達との交流だけでなく学級間、学年間といったより多様な相手との交流を設定したりしていくなどして目的意識や相手意識の高まりを意図した言語活動を意図的・計画的に設定していく。このような考えでカリキュラムを創造することで、子どもは他者と積極的に交流したり、協議したりする相互作用的な交流の中で豊かな人間関係を育成できる。また、自分の言語活動を主体的に見つめ直していく力も培うことができる。

例えば、第4学年「本と友達になろう」の単元では、3年生に読んでもらいたい本を紹介するカードを作り、相手意識・目的意識をもたせる。また、自分が選んだ本の内容を分かりやすく伝えるにはどんな観点が大切か考えさせることで、伝えたいことを考えながら読もうとする単元への意欲付けも図る。さらに、出来上がった読書紹介について、3年生の児童から感想をもらうことで、他の人に読み取った内容についての自分の考えを分かりやすく伝えるためには、単に印象を発表するのみではなく、叙述を基に考えを伝えようとする態度を育てたり、自分の本に対する興味が広がったことに目を向けさせ、読書をするもののよさについて考えさせたりすることができる。

(3) 共通体験活動の重視

子どもたちは他者とかかわり、思いを伝え合うことで、思考の客観性や一貫性などの質を高め、自分の思考、理解を明確にすることができる。また、他者の多様な思いから、自分の考えを広げたり、深めたりして、自分のことばと再度向き合い、自分の思いが高まった喜びを実感することができる。その際、共通に体験したことのある対象について伝え合うことにより、お互いの思い、表現したことばの違いが明確になり、自分の思いや自分のことばについて再考したり、吟味したりすることができる。子どもたちに共通する体験活動として、教科等での学習内容や学校行事での活動が挙げられる。

そこで、単元で必要とされる「知識、技能」を明確にした上で、共通体験活動を重視した学習内容を設定し、指導時期を考えながらカリキュラムを編成していく。

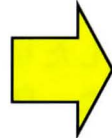
例えば、第2学年「じゅんじょに気をつけてよもう」の単元では、時間的な順序、様子と理由を考えながら読むこと、書こうとする題材に必要な事柄を取材し、順序に沿った構成を考えて書くことが、身に付けさせたい「知識、技能」である。時間的な順序を考えながら植物の生長の様子について読む際に、生活科で育てているミニトマトの観察と関連させると、時間の経過を表す言葉と事実の変化について、自分の体験と比較しながら思考することができる。また、順序に沿った構成を考えて書く際に、自分が育てているミニトマトについての観察記録を伝え合うことにより、お互いのことばの違いに気付いたり、そこから考えられるお互いの思いの違いを考えたりすることができる。

4 他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムの具体化

(1) 単元配列の具体化

カリキュラム創造の三つの視点を基に、第6学年の単元配列を以下のようにした。

学期	単元名	時数	
1 学期	つづけてみよう	1	57
	本と親しみ、自分と対話しよう	7	
	漢字の形と音・意味	2	
	文章を読んで自分の考えをもとう	6	
	5年の漢字①	2	
	短歌・俳句の世界	4	
	暮らしの中の言葉	2	
	相手や目的に合わせて書こう	11	
	5年の漢字②	2	
	学級討論会をしよう	6	
	読書の世界を深めよう	12	
	5年の漢字③	2	
夏季休業			
2 学期	詩を楽しもう	2	49
	同じ訓をもつ漢字	2	
	共に考えるために伝えよう	13	
	5年の漢字④	2	
	日本で使う文字	2	
	表現を味わい、豊かに想像しよう	8	
	熟語の成り立ち	2	
	5年の漢字⑤	2	
	筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう	14	
	5年の漢字⑥	2	
3 学期	今、わたしは、ぼくは	6	34
	感動を言葉に	4	
	言葉って、おもしろいな	10	
	漢字を使って楽しもう	2	
	学習したことを生かして	12	



学期	単元名	時数
前期	つづけてみよう	1
	本と親しみ、自分と対話しよう	7
	漢字の形と音・意味	2
	文章を読んで自分の考えをもとう	6
	学級討論会をしよう	6
	5年の漢字①	2
	今も昔も	4
	短歌・俳句の世界	2
	暮らしの中の言葉	2
	5年の漢字②	2
	5年の漢字③	2
	相手や目的に合わせて書こう	9
	読書の世界を深めよう	8
	夏季休業	
読書の世界を深めよう	4	
表現を味わい、豊かに想像しよう	8	
秋季休業		
後期	詩を楽しもう	2
	同じ訓をもつ漢字	2
	共に考えるために伝えよう	13
	5年の漢字④	2
	日本で使う文字	2
	熟語の成り立ち	2
	5年の漢字⑤	2
	筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう	14
	5年の漢字⑥	2
	言葉って、おもしろいな	6
	漢字を使って楽しもう	4
	感動を言葉に	10
	今、わたしは、ぼくは	2
	学習したことを生かして	12

<視点ア>

事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む学習（読むこと）を互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う学習（話すこと・聞くこと）に生かす。

<視点ウ>

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）にかかわる学習を集中的に行うことにより、我が国の言語文化についての関心をじっくりと深めることができる。また、社会科「国風文化」の学習との関連も図ることができる。

<視点ア>

「目的や相手に合わせて書こう」における案内文の学習（書くこと）と「読書の世界を深めよう」における推薦図書の魅力について話の組立てを工夫して話す学習（話すこと・聞くこと）を関連させて、「表現を味わい豊かに想像しよう」（読むこと）の学習に生かす。

<視点ウ>

修学旅行における長崎原爆資料館で見たり、聞いたりした体験と教材文とを関連付けることにより、筆者の考えと自分の考えを関係付けて考えることができる。

<視点イ・ウ>

夏季休業の前後で単元を分けて配置することにより、複数の本をじっくりと読み比べた後に推薦文を書かせることができる。また、夏季休業中の読書に目的意識をしっかりともたせながら取り組ませることもできる。

<視点イ>

6年の各学級がタイムカプセルの準備を始めるこの時期に、小学校生活における思い出について詩に書いたり、スピーチしたりする学習を設定する。詩集やVTRとして残り、タイムカプセルに入れるという目的意識、また、20歳になった自分宛にというこの時期の6年生ならではの相手意識を強くもたせることができる。

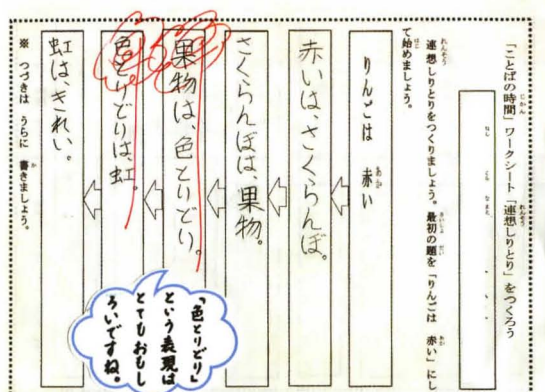
※<視点ア><視点イ><視点ウ>等は、前述のカリキュラム創造の視点を示す。

(2) 言語の豊かさにふれさせるための授業外の実践

ア 朝の活動「ことばの時間」

本校では、子どもにとってより魅力ある学校を目指す一環として、平成20年度に、朝の15分間の活動を見直した。そしてその結果、言語の広がり、深まりを感じさせ、興味・関心を高めることをねらいとする「ことばの時間」を年に4回設定した。

領域のバランスを考慮したり、全学年、伝統的な言語文化にかかわる授業を行っている時期には古典に親しむ態度を育成できるような内容を設定したりしている。また、活動内容を立案する際には、カリキュラムを創造するために設定した「各領域の関連を図った言語活動の設定」「共通体験活動（他教科・学校行事等との関連）の重視」「目的意識・相手意識の重視」という三つの視点を十分考慮した。



【ことばの時間ワークシート】

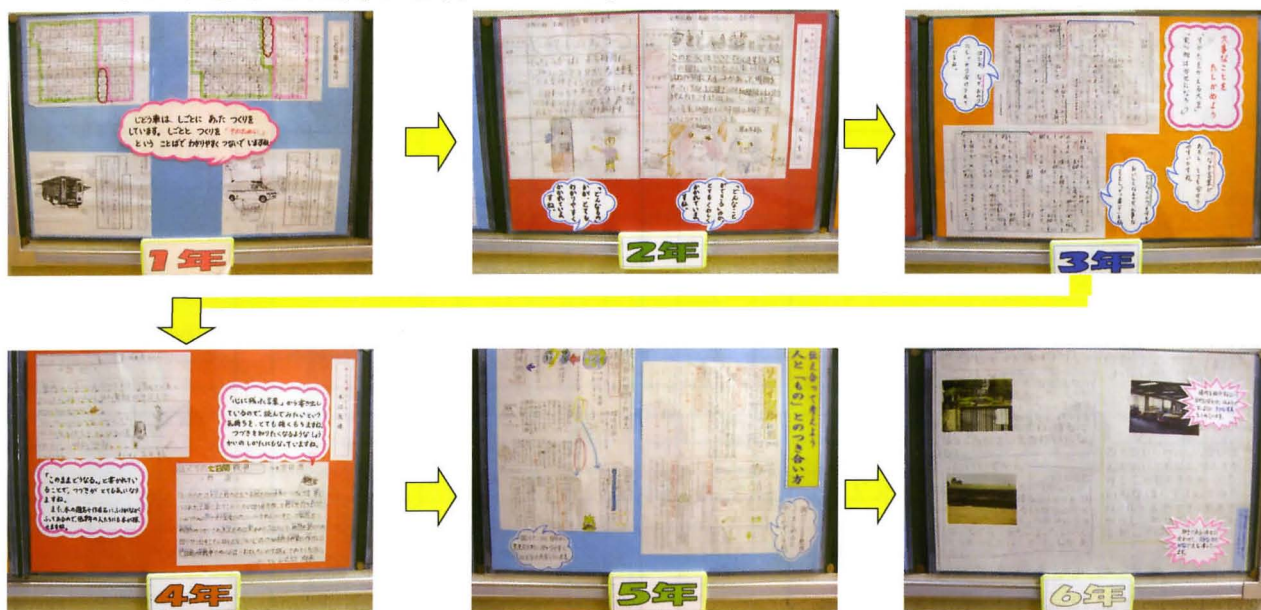


【活動の様子】

イ 掲示板「ことばの森」

図2(P28)で示したとおり、「他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラム」を創造するにあたって、わたしたちは言語環境の充実も重視した。そして、掲示板「ことばの森」を通して、子どもたちに必要な情報を提供したりに友達の作品から学ばせたりしている。

また、学習内容の系統性が子どもたちにしっかりと分かるように各学年のポイントを示した掲示を行っている。



【掲示板「ことばの森」】

Ⅲ 研究の実際

1 実践の立場

(1) 実践の基本的な立場

本実践では、「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども」を育成するために創造した、「他者とのかかわりを通して自分の言葉と向き合う国語科カリキュラム」が妥当であるかを、次の視点で検証する。

ア 各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定

イ 目的意識・相手意識の重視

ウ 共通体験活動（他教科・学校行事との関連）の重視

(2) 実践の評価とその方法

実践の検証の仕方としては、子どもたちの授業中の発言、ノート、自己評価、完成した作品を分析すること等で見取っていく。

2 国語科 第3学年 年間指導計画

表の見方 (◎重点指導事項 ○指導内容)
言語活動に示している片仮名(ア・イ～)は、学習指導要領解説各領域の例

【話すこと・聞くこと】 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。		指 導 事 項										言語活動								
		話すこと・聞くこと 課題設定・取材	話すこと	聞くこと	話し合うこと	課題設定・取材	構成	記述	推敲	交流	音読	読むこと 説明的な文章の解釈	文学的な文章の解釈	自分の考えの形成及び交流	目的に応じた読書	伝統的な言語文化・国語の特質	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	
【書くこと】 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書くようとする態度を育てる。																				
【読むこと】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。																				
学 月	単 元 名																			
前 期	4 本と出会う、友だちと出会う 漢字の音と訓		◎			○				◎	○			◎			話し合い	案内状	感想	
	5 まとまりに気をつけて読もう 国語辞典たんけん						○					◎						説明	感想	
	6 分かりやすく書こう 詩を楽しもう			○		○	○	◎										調査報告		
	7 くわしくする言葉 じゅんじょが分かるように話したり聞いたりしよう	◎	◎	○							○					◎			詩	
	8 本と友だちになろう 詩を楽しもう					○		○	○	◎			◎	○	◎			説明	紹介	
	9 へんとつくり 進んで話し合い、発表しよう		○		◎		○										◎			
後 期	10 インタビュー 反対の意味の言葉 場面の様子をそうぞうしながら読もう こそあど言葉		◎	○												◎				
	11 ローマ字 大事なことをたしかめよう					◎	○	○	○			◎		○		◎		意見	説明	報告
	12 漢字の音と訓 送りがな まとまりに分けて書こう															◎				
	1 いろはがらで遊ぼう 考えを整理して話し合おう 漢字の意味															◎		話し合い		
	2 そうぞうをふくらませて書こう 言葉っておもしろいな						◎	○	○	◎						◎			物語	物語
	3 学習したことを生かして			○			○	○					○	○						

3 実践結果と考察 第3学年単元「まとまりに分けて書こう」

(1) 目標

- ア 自分ができるようになったことや、自慢できることを友達に説明することに興味をもち、説明書を書こうとすることができる。
- イ 事柄のまとまりを意識して、段落に分類することができる。
- ウ 大切なことを明確にしながら、段落と段落のまとまりに気を付けて書くことができる。

(2) 学習内容の設定

ア 各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定

※ (ア)は単元，(イ)は領域，(ウ)は言語活動

(ア) 単元「大事なことをたしかめよう」 (イ) 書くこと，読むこと (ウ) 中心となる語や文，段落相互の関係に注意して読んだり，説明文に書いたりする言語活動	(ア) 単元「じゅんじょが分かるように話したり聞いたりしよう」 (イ) 話すこと・聞くこと (ウ) 相手に正確に伝わるように，必要な事柄を選択して，順序よく説明したり，聞いたりする言語活動
(ア) まとまりに分けて書こう（本単元） (イ) 書くこと (ウ) 大切なことを明確にしながら，段落と段落のまとまりに気を付けて，小見出しを付けた説明書を書く言語活動	

イ 目的意識・相手意識の重視

子どもたちの中には，同級生と比較し自分の得意なことについて意欲をもって書けない子どもも見られる。そこで，これまでの自分を振り返り，自分ができるようになった過程を説明書に書き，1年生に伝えるという内容を設定する。子どもたちに同学級の身近な友達との交流だけでなく学年を越えた相手との交流を設定していくことで目的意識や相手意識を高められると考える。また，でき上がった説明書について，1年生の児童からの感想を読ませることで，自分の考えを分かりやすく伝えるために，大切なことを明確にしながら段落と段落のまとまりに気を付けようとする態度を育てたり，自分の思いが伝わったという達成感や成就感を味わわせたりすることができる。

ウ 共通体験活動の重視

「ふかめる」過程での説明書には，「リコーダーのこつ」，「なわとびの上手なとび方」，「逆上がりのできるまで」など，教科等で体験した内容を設定させる。このことにより，お互いに自分の体験を通したアドバイスができると考える。また，中心となる語や文，段落相互の関係に注意して書く際に，共通体験を基にした説明文を伝え合うことにより，お互いのことばの違いに気付いたり，そこから考えられるお互いの思いの違いを考えたりしながら，自分のことばと向き合うことができると考える。



【アドバイスをし合っている場面】

(3) 指導計画 (全 14 時間)

*視点・・・カリキュラム創造の視点

過程	自分の思いを持ち、伝え合うよさを実感する子どもの姿	主な学習活動	教師の働きかけ
つかむ・みとらす ②	1 年生に、ぼくの得意なことを伝えてあげたいな。(視点イ)	1 学習目標の設定 ○ ビデオの視聴 ○ 単元の目標の設定	○ 自分の思いを持たせるために、「1 年生が教えてほしいこと」のビデオを用意し、視聴させる。 ○ 説明書作成の手順を確認させるために、共通体験を基に学級全体で同じテーマの説明書を作らせる。
しらべる ④	目次は、小見出しになっているね。小見出しは、11月に勉強したぞ。(視点ア)	2 共通の事象についての説明書の作成 ○ 教材文の読み取り、よさの確認 ○ 説明書作成の手順	○ まとまりを意識させるために、各段落の小見出しを目次とさせる。 ○ 相手意識・目的意識や必要感を持たせるために、1 年生が教えてほしいことの集計結果を示す。
ふかめる ⑥	練習のじゅんじょをまとまりに分けて書いたら 1 年生にも分かるぞ。(視点イ)	3 伝えたいことの決定 ○ 相手・題材の決定 ○ 書き方の工夫の確認	○ 1 年生にも分かりやすい説明書を作成させるために、伝える相手に応じた書き方について考えさせる。
振り返る・生かす ②	日記をまとまりに分けて書いてみようかな。 友達の書いた理科の研究記録に似ているね。(視点ウ)	4 説明書の作成 ○ 資料収集、下書き・推敲・清書 5 発表会、相互評価 ○ 説明書の読み合い ○ 相互評価・感想交流	○ 自他の表現のよさに気付かせるために、互いの書いた説明書について、観点を基にした感想を伝え合わせる。 ○ 今後の生活に生かすために、この学習で学んだことを役立てる場面を考えさせる。

(4) 実際 (6/14)

*視点・・・カリキュラム創造の視点

主な学習活動	自分の思いを持ち、伝え合うよさを実感する子どもの姿
1 「1 年生が教えてほしいこと」のビデオを視聴する。	◇ 1 年生が「縄跳びの跳び方を教えてほしい」等 お願いする映像を見て、自分の得意なことを 1 年生にどのように伝えるか考えさせる。 1 年生にも分かりやすい説明書を作ってみたいなあ。(視点イ)
2 学習課題を設定する。	小見出しや段落など、これまでに学習したことを生かせるね。(視点ア)
3 学習の進め方を確認する。	教科書のようにまとまりに気を付けて書くと、1 年生に分かりやすく伝わりそうだなあ。(視点ア)
4 教材文の書き方の工夫を確認する。 ・横書きの書き方 ・説明書の作り方	「スピードを出しすぎずに乗ろう」など、交通安全教室で習ったことを入れるといいね。(視点ウ)
5 共通体験を基に、試しに書いてみる。	「○○君の意見を聞いて、自転車の安全な乗り方だけで一つの段落にすればいいと分かったよ。(視点イ)
6 学習のまとめをする。	自分が 1 年生だったらどんな説明書を読みたいか考えると、分かりやすくなった。

(5) 結果と考察

ア 各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定

本単元では、「説明書を作る」という言語活動を行った。その際、単元「大事なことをたしかめよう」で学習した「段落」「つなぎ言葉」を生かして、小見出しのついた説明書を書くことができていた。また、1年生にも分かりやすくするための「書き方の工夫」も話し合い、説明書に生かすことができた。

一つの段落を一枚に書き、次の段落は次ページになるようにすると、分かりやすいよ。

④すばりにチャレンジ!(四日目)
ここからは、デニスの
ツギのきまりになるすばり
をする。*フォアと*バック
がりょうぎできるように
する。

<ちょっとひと言>
一日目のことを思い出
してれん習!

<意味>
*フォア… 右むき
*バック… 左むき

「大事なことをたしかめよう」
で学習した小見出しを付ける
と、どんなことが書いてあるか
すぐ分かるね。


「じゅんじょが分かるように話
したり聞いたりしよう」で学習
したつなぎ言葉を使うと、順序
よく書くことができるな。

「まとまりに気をつけて読もう」
で学習したように、「はじめ・中・終わり」に分けて書いて
いくと、きっと分かりやすい
説明書になるな。

② 試合の準備と練習
試合は、音せんうちやくをする。なる
べくかからなくなるまで練習しよう。

ちょっとアドバイス～
音せんうちやくより、なわを
少し速くはわすれよう。

音せんうちやくは
なわを音せんうちやくする
簡に、音せんうちはねる。
(両足をそろえる。)



なわが落ちて
音せんうちやくする
1回ぶん。

【各領域の関連を図った言語活動の系統化を生かした説明書】

上記の作品のように、友だちと「知識、技能」についてアドバイスし合うことによって、自分のことばと向き合い、自分の思いを相手に分かりやすく伝えようという意欲を高めることができた。また、深まった考えを作品に生かすことができた。よって、各領域の関連を図った系統的な言語活動設定は、他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムに有効であったと言える。

イ 目的意識・相手意識の重視

「つかむ・みとおす」、「調べる」過程で、「1年生が教えてほしいこと」のビデオを視聴させた。子どもたちは、下学年に教えるということで「自分の得意なことを分かりやすく伝えたい。」という思いをもつことができた。また、1年生が「教えてほしい。」と言っている内容に即した説明書を作る児童もあり、「必要とされているものを作りたい。」



【ビデオを視聴している場面】

と考えるようになった。そして、自分の思いを伝えるためのための説明書作りに、単元全体を通して主体的に取り組んでいた。さらに、1年生から「やってみたらできるようになったよ。」といった声を聞き、人のために役立つものを作り、それを伝え合うことのよさを感じていた。これらのことにより、目的意識・相手意識をもち学習に取り組ませることは他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムに有効であったと言える。

ウ 共通体験活動の重視

各自で説明書の作成に取り組む前に、交通安全教室という共通体験活動を想起しながら安全な自転車の乗り方についての説明書を作成した。共通に体験した活動を想起することで、内容や表現についてアドバイスし合うことができた。その後、他教科で学習したことについての説明書を各自作成した。これらの共通体験活動を扱うことで、友だちの作品も自分の作品のように理解しようとしたり、互いに積極的にアドバイスし合ったりする姿が見られ、自分の言葉と向き合う姿が見られた。これらのことより、共通体験活動を実践に生かすことは、他者とのかかわりを通して自分のことばと向き合う国語科カリキュラムに有効であったと言える。



【グループごとに話し合っている様子】

IV 研究の成果と課題

わたしたちは、昨年度研究の「自ら考え、伝え合う言語活動の充実」の考えを踏襲しながら、「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子どもの育成」を目指して新たなカリキュラム創造についての研究をスタートさせた。本研究はまだ仮説中心のものではあるが2年後の授業プランの完成を見通すものとして次のような成果と課題を得ることができた。

1 研究の成果

- 「各領域の関連を図った系統的な言語活動の設定」「目的意識・相手意識の重視」「共通体験活動（他教科等・学校行事等との関連）の重視」という三つの視点に基づいて、学年のカリキュラムを仮説的に置くことができた。
- ことばの豊かさにふれさせる言語活動や授業外の取組をカリキュラムに位置付けたことで、より主体的にことばにかかわりながら認識を深めていく子どもの姿が見られた。
- 他者とのかかわりを通して自分の思いを伝えることができたという成就感を味わわせることは、ことばに対する見方や考えを広げ、日常生活に生きて働くものとなることが分かった。

2 研究の課題

- 設定したカリキュラムの時数や配列の妥当性の検証
- 他教科等、諸教育活動との更なる関連の模索

【主な参考文献】

- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編」（東洋館出版 平成 20 年）
- 寺井正憲編著 「小学校教育課程講座 国語」（ぎょうせい 2008 年）
- 高木展郎編集 「各教科における言語活動の充実」（教育開発研究所 2008 年）
- 「小学校新学習指導要領の展開」（明治図書 2008 年）